

- 問1 青森県にある三内丸山遺跡をはじめ、日本各地の縄文時代の遺跡から見つかる「土偶」について、その製作背景や当時の生活の様子を説明したものとして最も適切なものはどれですか。(2023年 香川公立入試 類似)
- 縄文土器が作られ、狩猟や採集による定住生活が行われる中で、食物の豊作や多産を祈るために作られた。
 - 本格的な稲作が広まり、収穫した米を保存するための高床倉庫や金属器が普及する中で、魔除けとして作られた。
 - 王や豪族といった有力者が現れ、巨大な前方後円墳が築かれた際に、死者を吊うために作られた。
 - 大陸から伝わった仏教の教えが広まり、寺院の本尊として拝むために精巧に作られた。
- 問2 縄文時代の人々の生活や文化について、食料の確保方法とそれに用いられた道具の組み合わせとして最も適切なものを次の中から選んでください。(2019年 佐賀公立入試 類似)
- 狩りや採集で得た食料を煮炊きしたり保存したりするために、縄目などの文様がついた土器が用いられた。
 - 本格的な稲作が始まり、収穫した米を保存するための高床倉庫や、祭祀のための銅鐸が用いられた。
 - 大陸から伝わった青銅器や鉄器を使い、大規模な開墾を行うことで、余剰生産物を蓄えるようになった。
 - 牛馬を利用した耕作や二毛作が広まり、収穫した作物を都市の市場で売買する生活が一般的となった。
- 問3 縄文時代の人々は、竪穴住居に住み、狩りや漁、採集を行って生活していました。こうした生活の中で、食べた後の貝殻や動物の骨、役目を終えた石器や土器などが一定の場所に積み重なって形成された、当時の生活を知るための重要な考古学的資料となる遺跡を何と呼びますか。(2018年 香川公立入試 類似)
- 貝塚
 - 古墳
 - 環濠集落
 - 高地性集落
- 問4 佐賀県の東名遺跡(ひがしみょういせき)では、約8千年前の地層から植物の繊維で編まれた国内最古級の「編みかご」が発見されました。このような発見から推測される、当時の人々の生活習慣や信仰に関する記述として正しいものを次の中から選んでください。(2019年 佐賀公立入試 類似)
- 自然の恵みに頼った生活を送っており、魔よけや豊かな収穫を祈るために土偶(どぐう)が作られた。
 - 有力な王が各地を支配しており、その権力を象徴するために巨大な前方後円墳が造られた。
 - 大規模な灌漑設備を整えて稲作を行い、村同士の争いに備えて周囲に堀を巡らせた環濠集落で暮らした。
 - 仏教の教えが広まり、国家の安泰を願って各地に国分寺や国分尼寺が建立された。
- 問5 縄文時代の遺跡において、海岸や水辺に近い集落付近で見つかる、食べた後の貝殻や魚の骨、破損した土器などが堆積した場所を何といいますか。当時の人々の「ゴミ捨て場」としての性格を持ち、生活の痕跡(生活跡)を現代に伝えるものを選びなさい。(2024年 大分県公立入試 類似)
- 貝塚
 - 古墳
 - 環濠集落
 - 高床倉庫
- 問6 山形県の西ノ前遺跡から出土した、その美しい造形から「縄文の女神」として国宝に指定されている土製品についての説明として、最も適切なものはどれですか。(2019年 山形公立入試 類似)
- 縄文時代に作られた土偶の一種であり、当時の人々の祈りや願いが込められている。
 - 弥生時代の遺跡から見つかった土偶であり、大陸から伝わった稲作の成功を祈るために使われた。
 - 古墳時代の古墳の頂上付近から発見された埴輪であり、葬られた有力者の権威を示している。
 - 飛鳥時代の寺院跡から出土した仏像の原型であり、鎮護国家の思想を反映している。
- 問7 縄文時代の人々が、食物の豊作や子孫の繁栄、あるいは病気や怪我の治癒などを願うための信仰として用いた、女性をかたどった土製の像を何と呼びますか。(2023年 香川公立入試 類似)
- 土偶
 - 埴輪
 - 銅鐸
 - 石包丁
- 問8 縄文時代の遺跡に関する調査報告において、「集落の近くから丸木舟が発見されたこと」と「大規模な貝塚が形成されていたこと」が同時に示される場合があります。これらの事実から導き出される、当時の人々の生活背景として最も適切な説明を選びなさい。(2024年 大分県公立入試 類似)
- 海や川の資源を積極的に利用しており、漁労が生活を支える重要な手段であった。
 - 大陸との公的な交易を行うため、大型の船を建造して組織的な外交を行っていた。
 - 稲作が普及したことで定住が進み、余った食料を貯蔵するために大規模な施設を作った。
 - 集落間の争いが激化したため、外敵の侵入を防ぐ目的で集落の周囲に堀を巡らせた。
- 問9 紀元前2000年ごろ、世界でインダス文明が栄えていた時期の日本列島における生活の様子を説明した文として、最も適切なものはどれですか。(2016年 愛知公立入試 類似)
- 表面に縄の模様がついた厚手の土器を用いて煮炊きを行い、地面を掘り下げて床を作った住居に住んでいた
 - 薄手で硬い赤褐色の土器を用いて食料を保存し、大規模な水田での稲作を中心とした生活を送っていた
 - 金属器が伝来して武器や祭祀の道具として使われ、有力な王を葬るための巨大な前方後円墳が築かれた
 - 土器はまだ作られておらず、ナウマンゾウなどの大型の獲物を追いつながら移動して生活していた
- 問10 縄文時代の人々の暮らしと文化についてまとめた資料によると、当時の人々は磨製石器などの道具とともに、土器を作り始めました。縄文時代において、土器が果たした主な役割として適切なものはどれですか。(2018年 徳島公立入試 類似)
- 木の実などの食料を煮炊きしたり、保存したりするため
 - 金属を溶かして、より強力な武器を作るため
 - 大規模な稲作を行うための、種もみを長期間保管するため
 - 大陸との交易において、貨幣の代わりとして使用するため
- 問11 縄文時代の遺跡から出土する、表面に縄目の文様が施されたり、大きな眼鏡のような目を持つ「遮光器土偶」などの土製品について、その当時の使われ方として最も適切な説明を選びなさい。(2026年 千葉公立入試 類似)
- 食物の豊穰や安産、病気の回復などを願うための、呪術的な道具として使われた。
 - 亡くなった豪族の墓である古墳の周囲に並べ、死者の霊を慰めるために使われた。
 - 大陸から伝わった仏教の教えに基づき、寺院の内部を飾るための仏像として使われた。
 - 稲作が普及した社会において、収穫した米を保存するための頑丈な容器として使われた。
- 問12 縄文時代における自然環境の変化と人々の暮らしの関係について、正しい背景を説明しているものはどれですか。(2022年 山口公立入試 類似)
- 温暖化により落葉広葉樹林や照葉樹林が広がり、ドングリなどの木の実が豊富になったため、採集活動が重要な食料確保手段となった。
 - 寒冷化によって大型動物が絶滅したため、人々は食料を求めて移動を繰り返す洞穴での生活を余儀なくされた。
 - 大陸と陸続きになったことで新たな家畜が持ち込まれ、広大な牧場での放牧を主体とした生活へと移行した。
 - 激しい気候変動を乗り切るために、共同体で大規模な金属器の生産を行い、近隣の集落と食料を奪い合う戦争が日常化した。
- 問13 青森県に位置し、大型掘立柱建物跡などの発見によって縄文時代の定住生活の実態を明らかにした、日本最大級の集落跡は何か。(2025年 北海道公立入試 類似)
- 三内丸山遺跡
 - 吉野ヶ里遺跡
 - 登呂遺跡
 - 岩宿遺跡

答え合わせ・解説

問1	答え 1 縄文土器が作られ、狩猟や採集による定住生活が行われる中で、食物の豊作や多産を祈るために作られた。	青森県の三内丸山遺跡は、縄文時代の大規模な集落跡として知られており、当時の生活を裏付ける多くの土器や土偶が出土しています。縄文時代の人々は、弓矢を用いた狩猟や木の実などの採集、漁労によって生活を営んでいました。土偶はこのような自然環境に依存した生活の中で、自然の恵みを祈り、豊かな収穫を願う信仰（呪術）の対象として重要な役割を果たしていました。
問2	答え 1 狩りや採集で得た食料を煮炊きしたり保存したりするために、縄目などの文様がついた土器が用いられた。	縄文時代は、氷河期が終わり温暖な気候になったことで、木の実の採集や弓矢を用いた狩猟が盛んになった時代です。採取した植物性の食料を煮たり、保存したりするために土器が作られ、表面に縄目の文様が見られることが多いことから縄文土器と呼ばれます。稲作や青銅器、鉄器の使用は、その後の弥生時代の特徴です。
問3	答え 1 貝塚	縄文時代に見られるこの遺跡は、当時の人々が食べ残したカスや壊れた道具を捨てた場所が堆積してできたものです。貝殻に含まれるカルシウム成分の影響で、本来なら土中で分解されやすい魚や獣の骨が保存されやすいため、当時の食生活や自然環境を解明するための貴重な手がかりとなります。
問4	答え 1 自然の恵みに頼った生活を送っており、魔よけや豊かな収穫を祈るために土偶（どぐう）が作られた。	東名遺跡で発見された編みかごは、縄文時代の人々が身近な植物を利用して食料の採集や運搬を行っていた高い技術を持っていたことを示しています。この時代の生活は自然環境に強く依存していたため、自然の力を畏れ、豊かな収穫や安産などを祈る呪術的な道具として土偶が盛んに作られました。古墳の造営や環濠集落、国分寺の建立は、より後の時代（古墳時代、弥生時代、奈良時代）の出来事です。
問5	答え 1 貝塚	縄文時代の人々が日常生活で出た不要物を捨てた場所です。単なるゴミ捨て場としての機能だけでなく、食べ残された骨や貝殻から、当時の人々がどのような動植物を食べていたか、あるいは当時の気候や海岸線の位置がどこにあったかを知るための貴重な史料となります。
問6	答え 1 縄文時代に作られた土偶の一種であり、当時の人々の祈りや願いが込められている。	「縄文の女神」という名称からも分かる通り、これは縄文時代に製作された土偶です。山形県舟形町の西ノ前遺跡から出土したこの土偶は、高さ45cmと日本最大級であり、当時の高い技術と精神文化を示しています。土偶はあくまで縄文時代の文化であり、古墳時代の埴輪とは製作された背景が明確に異なります。
問7	答え 1 土偶	縄文時代の人々は、自然界のあらゆるものに靈魂が宿ると考えるアニミズムを信じていました。この時代に作られた土製の人形は、多くの場合、乳房や腹部が強調された女性の姿をしており、新しい生命の誕生や自然の再生、そして食物の豊作を願う呪術的な道具として使われたと考えられています。古墳時代に作られ、古墳の周囲に並べられた埴輪とは、時代も目的も異なる点に注意が必要です。
問8	答え 1 海や川の資源を積極的に利用しており、漁労が生活を支える重要な手段であった。	丸木舟は水上移動や漁具として使われ、貝塚には魚の骨や貝殻が大量に含まれていることから、当時の人々が自然の恵み（特に水産資源）を巧みに利用して生活していた背景がわかります。組織的な外交や本格的な稲作、集落を守るための堀（環濠集落）などは、主に弥生時代以降に顕著になる特徴です。
問9	答え 1 表面に縄の模様がついた厚手の土器を用いて煮炊きを行い、地面を掘り下げて床を作った住居に住んでいた	この時期の日本は縄文時代にあたります。人々は縄文土器を使って、植物の採取や狩猟で得た食料を煮炊きして食べるようになりました。また、地面を掘り下げて柱を立て、屋根を葺いた「竪穴住居」を作ることによって、定住的な生活が営まれていました。他の選択肢は、弥生時代、古墳時代、旧石器時代の特徴です。
問10	答え 1 木の実などの食料を煮炊きしたり、保存したりするため	縄文時代、人々は定住生活を送る中で、採集した木の実や捕らえた獲物を調理する必要がありました。土器の出現によって、食料を「煮る」ことが可能になり、それまで食べられなかった硬い食材が食べられるようになったほか、食料の保存性も高まりました。
問11	答え 1 食物の豊穰や安産、病気の回復などを願うための、呪術的な道具として使われた。	縄文時代の人々は、自然界のあらゆるものに靈魂が宿ると考えるアニミズムの信仰を持っていました。土偶はその信仰に基づき、女性をかたどることで生命の誕生や食物の豊穰を祈ったり、体の一部をわざと壊すことで身代わりとして病気の治癒を祈ったりする目的で作られました。古墳時代に作られた「はにわ」や、弥生時代以降の貯蔵用土器とは、製作された時代も目的も異なります。
問12	答え 1 温暖化により落葉広葉樹林や照葉樹林が広がり、ドングリなどの木の実が豊富になったため、採集活動が重要な食料確保手段となった。	地球の温暖化は植生に大きな影響を与え、日本列島にはクリ、クルミ、ドングリなどの実をつける豊かな森林が形成されました。縄文時代の人々は、これらの木の実を採集し、アク抜きなどの加工を施して食用にする技術を確認しました。また、入り組んだ海岸線（リアス海岸）が形成されたことで、魚介類も豊富になり、貝塚が作られるほど漁労も盛んになりました。この安定した食料事情が、竪穴住居による定住生活を支える要因となりました。
問13	答え 1 三内丸山遺跡	青森県で発見された三内丸山遺跡は、縄文時代における最大級の集落跡であり、当時の人々が一定の場所に長期間とどまる「定住」を行っていたことを示す重要な遺跡である。佐賀県にある弥生時代の吉野ヶ里遺跡と混同されやすいが、時代背景と地域（青森）を区別して理解することが重要である。